

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・社会科】

平成17年5月

栃木県総合教育センター

本センターでは、平成16年7月、県内の公立小・中学校（小144校、中114校）を対象として、教育課程実施状況調査を実施しました。調査にあたっては、国が平成15年度に実施した同調査の調査票（ペーパーテスト及び質問紙）を複製使用し、小学校では第6学年を対象に第5学年段階の内容の調査を、中学校では第3学年を対象に第2学年段階の内容の調査を行いました。

今年度、調査結果及び調査結果を踏まえた学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめ、「栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン」シリーズとして、3回に分けて発行する予定です。各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

1 社会科の調査結果

調査結果の主な特色

< ペーパーテスト調査 >

本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均とほぼ同程度である。

内容ごとにみると、地理的分野「地域の規模に応じた調査」「世界と比べて見た日本」について、本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均を上回っている。歴史的分野「歴史の流れと地域の歴史」「近世の歴史」「近現代の日本と世界」については、全国の通過率の平均を下回っている。「歴史の流れと地域の歴史」は、その中で最も低い結果となっている。この項目に相当する問題は、第2学年で学習する内容についての歴史の流れを問う問題である。

評価の観点ごとの通過率の平均では、地理的分野については、4観点すべてで全国の通過率の平均を上回っている。歴史的分野については、「思考・判断」「知識理解」「資料活用」で全国の通過率の平均を下回っている。

< 質問紙調査 >

「社会科の勉強が好きだ」について、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答している本県の生徒は約5割で、全国と比べてわずかに低い。「社会科の勉強は大切だ」については、約7割の生徒が、また「社会科を勉強すれば、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる」については約6割の生徒が、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答しており、いずれも全国と比べて肯定的な回答の割合が高い。

第2学年で学習する地理的分野のすべての単元で、「きらいだった」と回答した生徒の割合が、「好きだった」と回答した生徒の割合を上回っている。また、大部分の単元で、「よく分からなかった」と回答した生徒の割合が、「よく分かった」と回答した生徒の割合を上回っている。これらは全国的な傾向である。

ペーパーテスト調査の結果から

通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
55.8%	56.0%	-0.2%	55.1%	0.7%

* 通過率は、問題ごとの正答、準正答の合計を解答者数の合計で割った数値。

* 通過率の平均は、3種類の問題冊子の各問いの通過率の合計を、総問題数(92)で割った数値。

* 設定通過率は、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値。

内容ごとの通過率の平均の比較

内容	通過率	本県の通過率	全国通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
地理(2) 地域の規模に応じた調査		61.0%	59.7%	1.3%	51.6%	9.4%
地理(3) 世界と比べて見た日本		58.7%	57.3%	1.4%	54.4%	4.3%
歴史(1) 歴史の流れと地域の歴史		55.1%	57.5%	-2.4%	62.0%	-6.9%
歴史(4) 近世の歴史		55.3%	56.3%	-1.0%	56.2%	-0.9%
歴史(5) 近現代の日本と世界		51.1%	52.7%	-1.6%	55.8%	-4.7%

本県の通過率が全国の通過率5%以上、上回っている、あるいは下回っている、内容ごとの問題数

内容	問題数	問題数	上回っている問題数	下回っている問題数
地理(2) 地域の規模に応じた調査		16	1	1
地理(3) 世界と比べて見た日本		26	2	0
歴史(1) 歴史の流れと地域の歴史		5	0	1
歴史(4) 近世の歴史		13	1	1
歴史(5) 近現代の日本と世界		32	2	7

評価の観点ごとの通過率の平均の比較

観点		通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
関心・意欲・態度	全体		56.1%	54.4%	1.7%	53.9%	2.2%
	地理		61.7%	58.0%	3.7%	52.5%	9.2%
	歴史		51.6%	51.5%	0.1%	55.0%	-3.4%
思考・判断	全体		52.7%	52.5%	0.2%	53.2%	-0.5%
	地理		51.7%	50.9%	0.8%	47.0%	4.7%
	歴史		53.5%	53.9%	-0.4%	58.3%	-4.8%
資料活用	全体		64.4%	64.0%	0.4%	55.2%	9.2%
	地理		68.7%	66.8%	1.9%	55.3%	13.4%
	歴史		57.8%	59.5%	-1.7%	55.0%	2.8%
知識・理解	全体		49.9%	50.9%	-1.0%	56.1%	-6.2%
	地理		50.9%	50.0%	0.9%	55.4%	-4.5%
	歴史		49.5%	51.3%	-1.8%	56.4%	-6.9%

前回と同一問題（26問）の通過率の平均の比較

本県の通過率	全国の通過率	前回の全国の通過率	設定通過率
54.8%	55.3%	52.2%	52.5%

内容	問題数	問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%以上、上回っている問題数	本県の通過率が全国の通過率を5%以上、下回っている問題数
地理(2) 地域の規模に応じた調査		5	0	0
地理(3) 世界と比べて見た日本		6	0	0
歴史(1) 歴史の流れと地域の歴史		0	-	-
歴史(4) 近世の歴史		4	1	1
歴史(5) 近現代の日本と世界		11	0	4

本県の通過率が全国の通過率を5%以上、上回った問題

分野	問題の内容		通過率 %			
	問題の要旨	選択肢・条件等	本県	全国	差	設定
地理的分野	アメリカの農業の特色を調べるための統計資料に不適切なものを選ぶ	選択肢 1 農産物の輸出量に占める合衆国の割合 2 一人あたりの嗜好品の消費量 3 農民一人あたりの農業機械保有台数 4 単位面積あたりの農産物の生産量	70.7	63.8	6.9	55
	少子化や高齢化がさらに進んだ場合生じる問題を、調査課題として記述する	条件 「日本において、少子化や高齢化がさらに進んだ場合、～」の書き出しの後に記述する	47.3	41.2	6.1	45
	日本の1930、1960、2002年の3つの年齢別人口構成の図が、古い順に正しくならべられているものを選択する	選択	84.6	79.3	5.3	60
歴史的分野	高度経済成長とともに出現した社会問題ではない問題を選ぶ	選択肢 1 水質汚濁・大気汚染 2 道路建設による環境破壊 3 大都市での住宅難や交通渋滞 4 戦災による生活物資の極端な不足	59.1	46.5	12.6	60
	高度経済成長期に登場した家電製品のうち1つを選択し、その製品による人々の生活の変化を具体的に記述する	選択肢 電気洗濯機 電気冷蔵庫 テレビ 条件 「～ので、～になった」という形式で記述する	61.8	54.6	7.2	60
	江戸時代の図や言葉から、学問の発達を示すものを選ぶ	選択肢(図や言葉) 1 図見返り美人 2 図解体新書表紙 3 図官営模範工場 4 図神奈川沖浪裏 5 言葉「水野忠邦が…」 6 言葉「井原西鶴が…」 7 言葉「田沼意次が…」 8 言葉 鎖国令(一部)	59.6	54.6	5.0	55

本県の通過率が全国の通過率を5%以上、下回った問題

分野	問題の内容		通過率 %			
	問題の要旨	選択肢・条件等	本県	全国	差	設定
地理的分野	アメリカで航空機や電子部品生産が発達している理由を記述する	論述	15.5	24.2	-8.7	40
	温帯の4種の雨温図から東京の雨温図を選び、その理由を論述する	選択 論述 雨温図の種類 1 西岸海洋性気候 2 地中海性気候 3 南半球の地中海性気候 4 温暖湿潤気候	29.1	35.2	-6.1	50
歴史的分野	鎌倉・室町・安土桃山・江戸時代の共通点を言葉で記述する	論述	18.4	40.9	-22.5	60
	地租改正の内容として正しいものを選ぶ	選択肢 1 土地を耕作する農民が石高の4割～5割を米で納める 2 公民とされた農民に年齢や性別に応じて土地が与えられる 3 地主制度がなくなり、小作人が自作農になることができる 4 土地の所有者が、地価から計算された税金を貨幣で納める	49.4	59.3	-9.9	60
	姫路城の写真を見て、場所と名前を選ぶ	選択	16.6	24.9	-8.3	50

分野	問題の内容		通過率 %			
	問題の要旨	選択肢・条件等	本県	全国	差	設定
歴史的 分野	第一次世界大戦の時の日本の動きを選ぶ	選択 選択肢 1 日本は朝鮮で東学を信仰する農民が蜂起すると清に対抗... 2 日本はドイツ・イタリアと三国同盟を結び、連合国側と... 3 日本は東アジアに進出したロシアと満州や日本海などで... 4 日本は日英同盟を理由にして参戦し、中国に二十一か条...	47.6	55.5	-7.9	50
	幕末の有名な人物4人の中から一人を選び、その人物に関することを記述する	論述 勝海舟 西郷隆盛 坂本龍馬 徳川慶喜	45.5	52.1	-6.6	55
	一次大戦前と後のヨーロッパ地図(国の範囲を示したもの)の変化を読み取り、論述する	論述	62.4	69.0	-6.6	60
	徳川吉宗と松平定信との間に入る図や言葉を選ぶ	選択 選択肢(図や言葉) 1 図見返り美人 2 図解体新書表紙 3 図官営模範工場 4 図神奈川沖浪裏 5 言葉「水野忠邦が...」 6 言葉「井原西鶴が...」 7 言葉「田沼意次が...」 8 言葉 鎖国令(一部)	54.3	59.9	-5.6	50
	近代産業の発展にともなう農村の変化を正しく示しているものを選ぶ	選択 選択肢 1 技術が進歩し、農具の発明...、新田開発...、商品作物... 2 地主が持つ小作地を強制的に買い上げ、小作人に安く... 3 惣と呼ばれる自治組織がつけられ... 4 地主と小作人との貧富の差はますます大きくなり、...	36.4	42.0	-5.6	55
	幕末の貿易に関する文章を読み、関税自主権について書かれていることを判断し、日米修好通商条約の中から関税自主権に関わる条文を選ぶ	選択 文章 「海外の安い木綿が、低い関税でさかんに流通するようになった影響で...昔は木綿問屋が三十軒ばかりもあったのに...」 第1条 今後日本とアメリカ合衆国は永く仲良くすること 第3条 下田・函館のほか、神奈川・長崎・新潟・兵庫を... 第4条 すべての輸入品について、別に定めた関税を、... 第5条 外国の貨幣は日本の貨幣と同じ種類は同じ量...	60.9	66.4	-5.5	60
	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの日本の動きに関する3種類の記述を、年代の古い順に正しく並べる	選択 日本の動きに関する記述 1 日本がドイツ・イタリアとの間で軍事同盟を結び結束... 2 国際連盟の総会で満州国の不承認と日本軍の駐屯地へ... 3 イギリスがドイツに宣戦すると、日本も日英同盟を理由に...	30.2	35.6	-5.4	45

全国の通過率と比較して本県の通過率が5%以上下回った問題は、地理的分野は2題、歴史的分野は通過率の低さを反映して10題でした。

この歴史的分野の10題について、どのような問題なのか分析していくと、本県生徒について大きく共通点が二つ浮かび上がります。一つ目は、複数の時代の共通性を把握したり、複数の歴史的できごとを流れとして把握したりするという、大きな視野で歴史をとらえる力が不十分ということです。二つ目は、地租改正で具体的に何がどう変化したのかや、第一次世界大戦時に日本はどう動いたかなど、基本的な知識ではあるけれども単に語彙を覚えるような知識ではなく、理解の深さが求められるような知識がないということです。

一つ目のような力は二つ目の力が基盤になって培われるものだと考えられますから、本県の中学2年生の歴史的分野の通過率の低さの原因は、様々な事象や時代的背景と関連させた理解に基づく歴史的な知識の不足によるものではないかと考えられます。観点別でも「思考・判断」「資料活用」「知識・理解」の観点で全国の通過率を下回りましたが、このことも同様のことのあらわれであると思われます。

そのような視点で全国の通過率と比較して5%以上下回った地理的分野の2題を見ると、歴史的分野で指摘したのとほぼ同じような傾向であることが分かります。

前回と同一問題のうち、本県通過率が今回もしくは前回の全国通過率より下回った問題

分野	問題の内容		通過率 %		
	問題の要旨	選択肢・条件等	本県	全国	前回全国
地理的分野	データの4カ国の面積と日本の面積を比較する	選択 選択肢 A国55万? B国110万? C国125万? D国190万? 日本の面積は示されていない	29.8	32.6	28.2
	我が国の主な貿易相手国の図をもとに、日本との貿易量が最も少ない地域を選ぶ	選択 図は世界地図上に円グラフで輸出輸入の割合と貿易額がしめされたもの 選択肢 1 北アメリカ 2 アフリカ 3 ヨーロッパ 4 東アジア	72.0	72.8	67.7
	データの4カ国の人口と日本の人口の比較をする	選択 データ A国6000万人 B国5200万人 C国3900万人 D国1億9000万人 日本の人口は示されていない	50.5	50.8	45.2
歴史的分野	地租改正の内容として正しいものを選ぶ	選択肢 1 土地を耕作する農民が石高の4割～5割を米で納める 2 公民とされた農民に年齢や性別に応じて土地が与えられる 3 地主制度がなくなり、小作人が自作農になることができる 4 土地の所有者が、地価から計算された税金を貨幣で納める	49.4	59.3	60.1
	第一次世界大戦の時の日本の動きを選ぶ	選択肢 1 日本は朝鮮で東学を信仰する農民が蜂起すると清に対抗... 2 日本はドイツ・イタリアと三国同盟を結び、連合国側と... 3 日本は東アジアに進出したロシアと満州や日本海などで... 4 日本は日英同盟を理由にして参戦し、中国に二十一か条...	47.6	55.5	59.2
	一次大戦前と後のヨーロッパ地図(国の範囲を示したもの)の変化を読み取り、論述する	論述	62.4	69.0	74.8
	徳川吉宗と松平定信との間に入る図や言葉を選ぶ	選択肢(図や言葉) 1 図見返り美人 2 図解体新書表紙 3 図官営模範工場 4 図神奈川沖浪裏 5 言葉「水野忠邦が...」 6 言葉「井原西鶴が...」 7 言葉「田沼意次が...」 8 言葉 鎖国令(一部)	54.3	59.9	57.8
	第一次世界大戦から第二次世界大戦までの日本の動きに関する3種類の記述を、年代の古い順に正しく並べる	選択 日本の動きに関する記述 1 日本がドイツ・イタリアとの間で軍事同盟を結び結束... 2 国際連盟の総会で満州国の不承認と日本軍の駐屯地へ... 3 イギリスがドイツに宣戦すると、日本も日英同盟を理由に...	30.2	35.6	34.1
	4つのできごとを順序正しく並べる	選択 できごと A 日英同盟 B 樺太千島交換条約 C 日露戦争 D 三国干渉	41.9	45.5	45.0
	文章で示す1913年の日本の輸出品を表した円グラフを選ぶ	選択 文章 1913年の輸出品を見ると、1885年と比べ生糸が花形であることには変わりがないが、紡績業が発達し、日本は綿糸の輸入国から輸出国になったことが分かる	54.8	56.3	51.3
	3つの事項に共通する明治政府の方針を選ぶ	選択 3つの事項 1 東京横浜間鉄道開通 2 富岡製糸場設立 3 徴兵令 選択肢 1 文明開化 2 四民平等 3 富国強兵 4 廃藩置県	52.1	53.3	52.9
幕末の鎖国継続論の反対意見とその理由を論述する	論述	53.5	54.4	57.3	

生徒質問紙調査(意識調査)の結果から

- * 数値は、質問に対して回答した生徒の割合を表す。
 * 本県の結果は、平成16年7月に3年生で実施したもの。
 全国の結果は、平成16年2月に2年生で実施したもの。

社会科の勉強に対する意識		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
社会科の勉強が好きだ。	本県	22.6%	26.8%	22.5%	23.3%	4.5%
	全国	24.9%	28.6%	20.9%	21.2%	4.1%
社会科の勉強は大切だ。	本県	33.2%	36.5%	14.1%	10.8%	5.0%
	全国	29.9%	37.0%	16.1%	11.1%	5.4%
社会科を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる。	本県	24.6%	32.4%	18.3%	12.3%	11.9%
	全国	18.2%	29.8%	21.1%	14.8%	15.6%

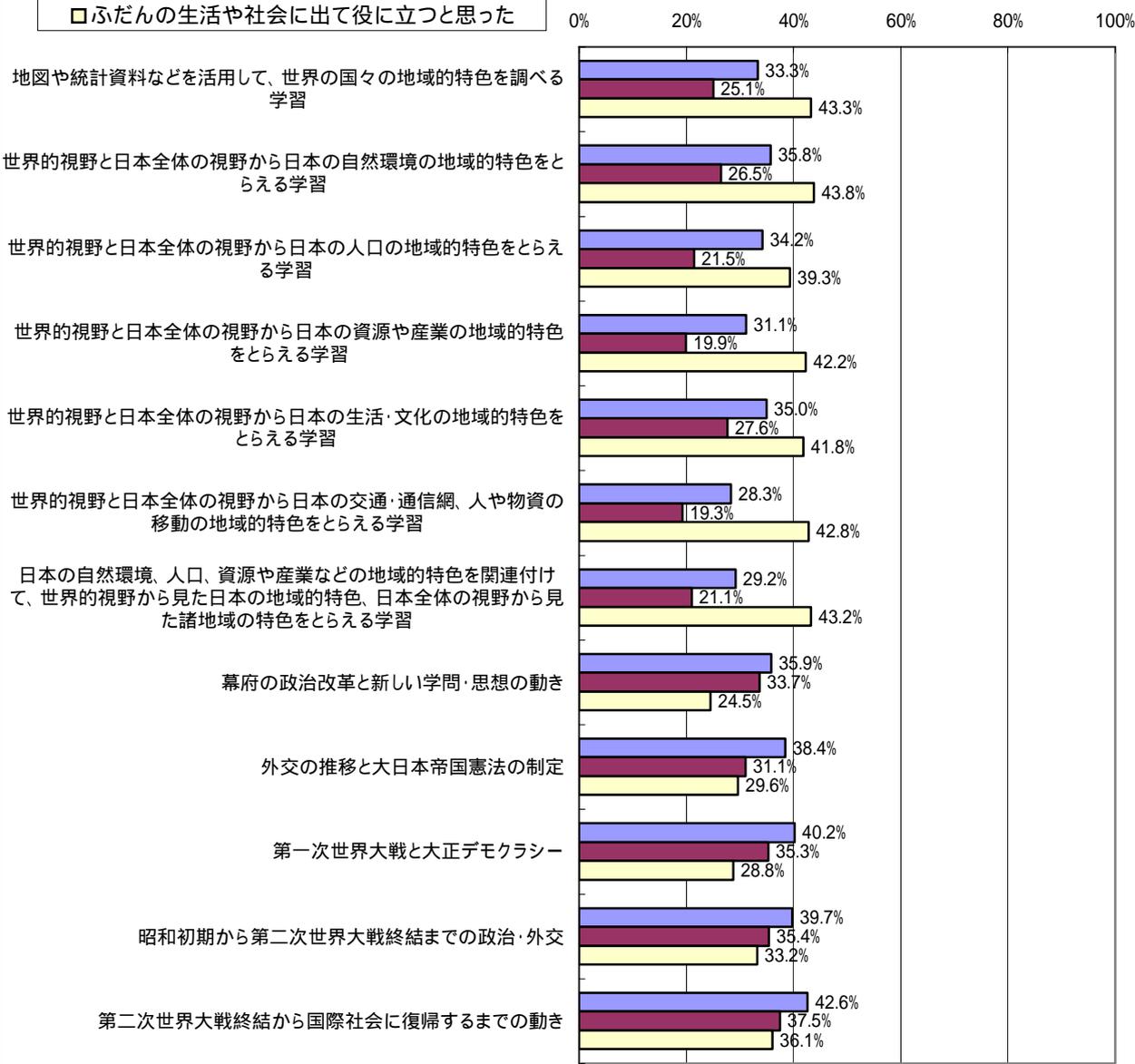
社会科の勉強の理解度		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分以上ある	分からないことが多い	ほとんど分からない
社会科の授業がどの程度分かりますか。	本県	13.7%	34.0%	30.4%	15.7%	4.8%
	全国	14.7%	35.2%	27.6%	15.3%	5.5%

関心・意欲・態度		そうしている	どちらかといえばそうしている	どちらかといえばそうしていない	そうしていない
社会科の勉強で、学校の図書館などを利用して、資料を集めたり活用したりしていますか。	本県	8.4%	17.0%	26.9%	47.3%
	全国	6.9%	13.8%	24.2%	54.5%
社会科の勉強に関することで、分からないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。	本県	14.1%	28.8%	28.4%	28.0%
	全国	13.5%	29.6%	28.3%	27.9%
様々な地図を使って、国や都市の位置や場所をよく調べていますか。	本県	8.5%	17.1%	27.1%	44.5%
	全国	7.1%	16.5%	27.8%	46.7%

社会科で学習した内容についての意識

- よく分かった
- 好きだった
- ふだんの生活や社会に出て役に立つと思った

勉強した内容についてどのように感じたか



(生徒質問紙調査の結果より)

生徒質問紙調査とペーパーテストの結果との関連

社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、社会科を勉強したいと考えている生徒は、ペーパーテストの正答率が高い傾向がみられる。

* 数値は、ペーパーテスト(社会科)の平均正答率(%)を表す。

質問	選択肢	そう思う	どちらかといえば そうしている	どちらかといえば そうしていない	そうしていない
	社会科の勉強に関する事で、分からないことや興味・関心を持ったことについて、自分から調べようとしていますか。		66.6	63.9	61.7

2 社会科の学習指導の改善プラン

学習指導要領の改訂にともない、「課題解決的な学習」や「調査学習」が特定の単元に位置づけられました。今回は、地理的分野の内容「地域の規模に応じた調査」について、「都道府県の調査」を中心に述べていきます。

教師質問紙及び生徒質問紙調査の結果と課題

課題解決的な学習や調査学習に対する教師の意識について

教師質問紙調査 栃木県の結果 ()内は全国の結果					
質問	回答	行っている方だ	どちらかといえば行っている方だ	どちらかといえば行っていない方だ	行っていない方だ
		課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか	11.4% (11.1%)	43.0% (40.5%)	37.7% (37.1%)
観察や調査・見学、体験を取り入れた授業を行っていますか	1.8% (3.0%)	7.0% (14.7%)	57.9% (44.6%)	33.3% (37.5%)	
博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業を行っていますか	0.0% (1.5%)	1.8% (4.9%)	28.1% (25.0%)	70.2% (68.0%)	
調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか	6.1% (8.5%)	42.1% (33.1%)	42.1% (40.4%)	9.6% (17.6%)	

- ・ 課題解決的な学習を取り入れた授業について、約5割の教師が「行っていない方だ」あるいは「どちらかといえば行っていない方だ」と回答している。
- ・ 観察や調査・見学、体験を取り入れた授業について、9割を超える教師が「行っていない方だ」あるいは「どちらかといえば行っていない方だ」と回答している。

地理的分野に対する生徒の意識について

生徒質問紙調査 栃木県の結果		地理的分野の内容にかかわる部分の平均					
区分	質問内容と回答	地理的分野の理解			地理的分野に対する好き・嫌い		
		よく分かった	よく分からなかった	無回答	好きだった	きらいだった	無回答
全体		32.4%	38.2%	29.4%	23.0%	47.4%	29.6%
男子		36.2%	35.1%	28.7%	25.7%	43.7%	30.6%
女子		28.3%	41.6%	30.1%	20.0%	51.5%	28.5%

- ・ すべての単元で「きらいだった」と回答した生徒の割合が、「好きだった」と回答した生徒の割合を上回った。
- ・ 大部分の単元で、「よく分からなかった」と回答した生徒の割合が、「よく分かった」と回答した生徒の割合を上回った。

平成14年度から内容やその取扱が大きく変わりましたが、課題解決的な学習や調査学習を積極的に進めている学校は多くありません。生徒が分かりやすく、関心や意欲を高められるような課題解決的な学習や調査学習を、教師が議論しあいながら整備していく必要があります。

地域的特色を見出すための基本的な視点や方法を理解しましょう

「地域の規模に応じた調査」では、生徒が実際に地域調査をしながら、地域的特色を見出す視点や方法を身に付けることが求められています。この単元では「異なる視点や方法」で教材を扱うことになっています。しかし、この「視点や方法」については、様々なとらえ方があり、教師にとっても理解しにくいものと思われる。

生徒にとって分かりやすく、関心や意欲を高められるような調査学習を行うためには、まずは教師が、地域的特色を見出すための基本的な視点や方法を理解することが必要です。

1 「静態的地誌」と「動態的地誌」の観点を加えてみましょう

地理学では、地誌の記述の仕方に「静態的地誌」と「動態的地誌」の2つの方法が確立されています。これらの方法は「異なる視点や方法」の好例です。

ポイント1: 静態的地誌

静態的地誌とは、はじめに地形・気候・植生などについて述べていき、その次に、人口・産業・集落・交通・生活などについて順に述べていくような方法で記述するものです。従来の教科書などではこのスタイルで記述されていることがほとんどでした。

このような記述スタイルでは、他地域との比較がやすく、各地域の特色を明確にすることができます。しかし、羅列的・平面的になりやすいという短所があります。

ポイント2: 動態的地誌

静態的地誌の短所を避けるために登場したのが動態的地誌です。これは、あらかじめいくつかの地域的特色をとらえておき、その中で最も鮮明に特色を表している事象に着目して、その地域的特色があるのはなぜか（特色の理由）を追究する方法で記述するものです。

出発点では一つの事象のみに着目しますが、地域的特色の理由を追究していく中で、他の要素との関係づけが次々と図られ、結果として地域を多面的・多角的にとらえることになります。

動態的地誌の短所としては、何に着目するかについては、主観的な取捨選択が行われやすいことや、記述の項目や記述の流れが地域によって異なるため、他地域との比較が困難であることなどが挙げられます。

2 静態的地誌の方法や動態的地誌の方法を、調査学習に取り入れてみましょう

ポイント3: 静態的地誌の方法による学習

「静態的地誌」の方法による授業の基本的な問いは、「**この地域はどのような地域的特色を持っているのか?**」です。これを問いながら地形・気候・産業……と、項目別に追究することになります。しかし、地域は多様な在り方をしているのでその特色はたくさんあります。そこで、教師が授業を計画する際には、どの面から切り込んでいくと地域的特色を有効にとらえることができるのかを検討し、いくつかの視点に絞っていくことが大切です。

したがって、この方法による授業では、「**どんな視点から調べさせ、追究させるか**」を事前によく検討しておくことが、指導のポイントです。

ポイント4: 動態的地誌の方法による学習

「動態的地誌」の方法による授業の基本的な問いは、「**この地域でそのような地域的特色がみられるのはなぜか?**」です。この問いを地域的特色を成り立たせている「**地域の環境条件**」「**他地域との結びつき**」「**地域で生きる人々の営み**」を関連させ、対象とする地域的特色を多面的・多角的に理解できるようにします。

この方法による授業では、「**追究の出発点となる地域的特色を多様な地域的特色の中からどのように選択するのか**」、すなわち中心となる地域的特色を十分検討しておくことが指導のポイントです。

以上のように、「静態的地誌、動態的地誌」という観点をもつことで、地域的特色をとらえさせる授業の流れが見え、調査学習の見通しをもてるようになります。地域的特色をとらえる学習と、その理由を探る学習は、必ずしも同じ比重で扱わなくてもよいことにも気付くでしょう。

三つの事例を学習する場合には、最初の事例は静態的地誌の方法、次は動態的地誌の方法、最後は両者の組み合わせによって授業展開をするなどの工夫をしましょう。

3 「全域」と「基域」の観点を加えてみましょう

ポイント5: 全域と基域

日本は47の都道府県から、都道府県はそれぞれ多くの市町村から構成されています。日本を「全域」とすると、日本を構成する都道府県が「基域」となります。同様に、ある都道府県を「全域」としたときは、その都道府県を構成する市町村が「基域」になります。

ポイント6: 全域と基域を視野に入れた学習

「栃木県の地域的特色とは何か」という問いには二つの答え方があります。一つは、栃木県の人口は全国で 番目であるとか、栃木県の農業生産額は全国で 番目であるという答え方です。もう一つは、栃木県の北西部は山が多く南東部は平野になっているとか、栃木県のA町とB市ではブドウの生産が多く、C町とD町ではニラの生産が多いという答え方です。

前者は、栃木県全体の特色を他県との比較からとらえたもので、日本を「全域」とし**栃木県を「基域」**としています。後者は、県内市町村のレベルから栃木県の特色をとらえたもので、**栃木県を「全域」**とし、市町村を「基域」としたものです。ある地域の特色をとらえさせるときには、このように「全域」と「基域」の視点を意識して追究させることが大切です。

授業では、3事例を扱う場合には、一つ目は全域として追究する事例、二つ目は基域として扱う事例、三つ目は全域と基域の両面から追究する事例とすることもできます。基域の知識がないと全域としての特色をとらえにくいので、県を全域として扱う場合には、栃木県を事例とするのが適していると思われます。

〔参考文献「中学校社会科 新地理学習の方向と展開」澁澤文隆:著 平成13年 明治図書〕

具体例

ここでは、栃木県の特色について、農業の視点から、基域と全域としての特色両方を用いて、静態的地誌の方法で追究するときの具体的な問いの例を示します。また、このようにしてとらえた特色を、さらに動態的地誌の方法で追究するときの問いの例を示します。

【静態的地誌の方法で追究するときの問いの例】

- 1 栃木県の農業の生産額は、全国からみると第何位なのか？ 【基域】
- 2 栃木県の田・畑・牧草地の面積の割合はどうなっているのか？ 【全域】
- 3 2は全国と比較するとどうなっているのか？ 【基域】
- 4 栃木県の主な作物の作付面積・収穫量・生産額はどうなっているか？ 【全域】
- 5 栃木県の主な作物の単位面積あたりの収穫量は全国的に見るとどうか？ 【基域】
- 6 全国的に見て生産額が上位である栃木県の農産物には何があるのか？ 【基域】
- 7 7の単位面積あたりの収穫量は全国的にみてどのくらいの水準か？ 【基域】
- 8 県の主な農産物や全国から見たときに多く生産されている農産物は県のどの辺で生産されているのか？ 【全域・基域】

栃木県の農業の特色の例

集約的な稲作とその裏作としての麦類の生産、地域ごとに特徴のある野菜の生産と酪農、これらが共に成り立っていることである。

【動態的地誌の中心的な問いの例】

- 1 栃木県は、大消費地の近くにあるのに、どうして集約的な稲作がさかんなのだろう？
- 2 栃木県はどうしてイチゴの生産が日本一なのだろう？

4 教科書の内容や資料を取捨選択したり、再構成したりしましょう

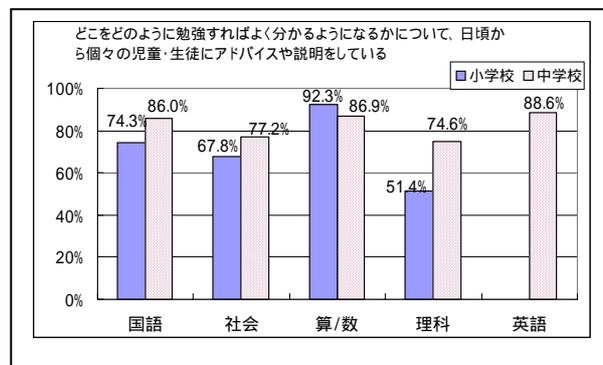
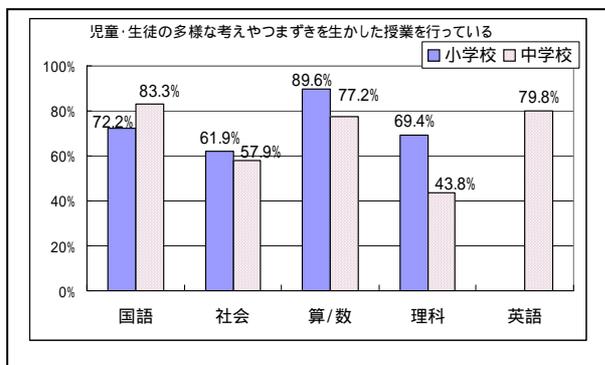
生徒にとって分かりやすく、関心や意欲を高められるような調査学習を行うためには、教科書に記載されている内容や資料を取捨選択したり、再構成したりすることが必要になります。

静態的地誌や動態的地誌、基域や全域の観点をもとにして、県内で採用されている教科書で取り上げられている県の事例の展開例を考えてみました。

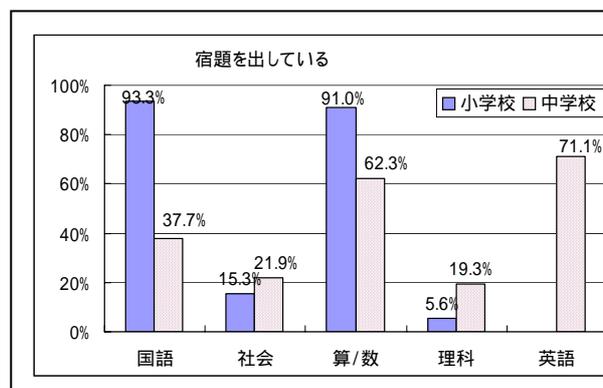
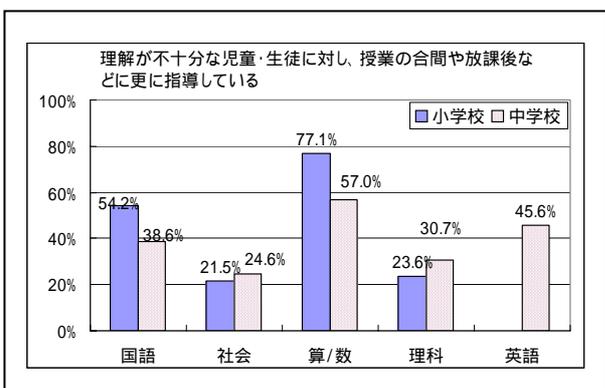
事例県	展開の要旨・ポイント(静態的地誌・動態的地誌、全域・基域)
山形県	<p>動態的地誌の方法を採用。まず主題図を読み取り、基域としての山形県の特徴を調べ、米とサクランボの生産とする。次にこれらの生産が多い理由を追究していく中で、自然との関わり、地域の人々の努力、交通網の発達等の視点が導かれ、それぞれについて調べる。</p> <p>米とサクランボという全国的に有名なものを追究する学習のため、動態的地誌の方法の学習の典型例となる。</p>
岩手県	<p>静態的地誌の方法を採用。岩手県を全域として、稲作・畑作・酪農・漁業・工業のさかんな地域を基域としてとらえ、それぞれの基域の特徴を明らかにしていく。その中で、自然的条件と人々の生活、資源・産業や交通網の整備と地域形成を関連づけるなどしていく。</p> <p>通常、他県の事例では基域の知識が乏しいため、静態的地誌の学習は難しい。しかし、岩手県は、稲作・畑作等の発達している地域が明確でとらえやすいため、静態的地誌の方法で扱うことが可能である。また、高速道路や新幹線の影響が分かりやすい。</p>
福岡県	<p>まず福岡県を基域とし、福岡県の特徴は何かを資料をもとに他県と比較しながら考え、福岡県は九州地方の中心地であるという仮説としての地域的特色をとらえる。次に歴史・人口と産業・国際交流等の視点で仮説が正しいかどうか、全域としての福岡県が九州の中心地であることを実証しながら追究していく。</p> <p>「そのような地域的特色があるのはなぜか」を追究するのではなく、ここでは「仮説としての地域的特色は正しいのか」を追究していく。</p>
東京都	<p>静態的地誌の方法を採用。まず東京都を人口密度によって区分して、都心・副都心、郊外、山間・離島に分けて基域とする。それぞれの基域ごとに地域の特徴と課題を見出していく。具体的には、都心・副都心は都市型工業の発展とドーナツ化現象、郊外は都市農業と環境問題、山間地は観光資源と過疎問題等である。</p> <p>明確な視点で基域を設定でき、それぞれの基域の特徴が異なっているので、他県の事例であるが静態的地誌の方法で分かりやすく扱うことができる。</p>
栃木県	<p>静態的地誌の方法と動態的地誌の方法の併用。まずは栃木県各地の気温・降水量・日照・地形・都市の分布・交通網などの特徴をつかむ。次に農業に注目し、全国順位の高い栃木の農産物の分布図を描き、県の農業の特徴を考える。栃木県の農業の特徴は「大消費地を近くに抱えた集約的郊外農業」であり、その典型例として「いちご」を取り上げる。どうして栃木はいちごの生産が日本一なのかを追究していくと、自然的現象、他地域との関連、人々の努力が浮き彫りになっていく。(前ページの具体例とは異なります。)</p> <p>地元県なので、データ等が入手しやすく、既得知識も多いため、他県よりも詳しく、具体的に扱うことができる。基域としては、様々な農業統計の各市町村のデータが使用できるので、多様な分布図作成とそれをもとにした考察が可能になる。</p>

教師の指導の状況

個に応じた指導



基礎・基本や学習習慣を身に付けるための取組



平成16年度 栃木県 教育課程実施状況調査の概要

- 調査実施時期： 平成16年7月1日～7月19日の期間内
- 調査方法： ペーパーテスト調査、児童生徒及び教員に対する質問紙による意識調査
- 調査対象学年： 小学校第6学年、中学校第3学年
- 調査教科：
- ・小学校（第5学年段階の内容）：国語、社会科、算数、理科
 - ・中学校（第2学年段階の内容）：国語、社会科、数学、理科、英語
- 調査問題：
- ・国立教育政策研究所が平成16年2月に実施した「小学校及び中学校教育課程実施状況調査」の複製
 - ・*ペーパーテスト調査については、各教科ともA、B、Cの3種類（ほぼ同程度の内容及び水準）の問題冊子を使用
- 調査学校及び児童生徒数：
- ・小学校：144校 約3900人
 - ・中学校：114校 約3500人

調査結果等は栃木県総合教育センターのホームページ (<http://www.tochigi-c.ed.jp/>) でご覧いただけます。

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【中学校・社会科】

発行 平成17年5月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303